

2025年3月31日

最終号

西南中生徒指導部通信

文責 松浦

花巻

参考文献

「タイムパラドックス」

田嶋・T・安恵

あやみ

いつものように青い空に白い雲が浮かんでいました。のび太が学校から帰ると、ドラえもんが動かなくなっていました。当然のび太にはその理由が分かりません。叩いたり突いたり、尻尾を引っ張ってみたり…でもドラえもんはピクリと動きません。のび太はタイムテレビを使って、二十二世紀にいるドラミちゃんと連絡を取りました。

ドラミちゃんは動かなくなってお兄ちゃんを見てすぐ、その原因が分かりました。「電池切れ」です。のび太は早く治してもらおうようにせがみました。そんなのび太にドラミちゃんは悲しそうに伝えました。「のび太さん、お兄ちゃんとの思い出が消えてしまってもいい？」ドラミちゃんは説明しました。電池を交換すると、今までの記憶が全て消えてしまうこと、今のままなら消えないこと、ドラえもんの制作者は極秘で、連絡して助けってもらうことは不可能なこと…のび太はうつむいて、ずっと考え、ある決心をしました。そしてドラミちゃんに言いました。「このままでいいよ。ありがとう。」

あれからどのくらい時間が経ったでしょう。のび太は科学者になっていました。小学生の頃、できの悪かった彼ですが、「あの日」以来、必死に頑張つて勉強し、大学、大学院と進学し、今では権威あるロボット工学研究の第一人者になっていました。ある日、絶対に入ることを禁じられていた研究室に、しずかちゃんが呼ばれました。中に入ると、夫であるのび太が微笑んでいました。そして、台の上にあるそれを見て、しずかちゃんは驚きました。「ドラちゃん？」

のび太は「あの日」以来、ドラえもんは未来に帰つたとみんなに言っていたのです。「しずか、今からドラえもんのスイッチを入れるからね。」しずかちゃんは黙つてのび太の顔を見ています。「あの日」以来、ずっとこの瞬間のために頑張ってきたのです。子どもの頃の思い出がよみがえってきます。気がつく、涙で頬が濡れていました。

のび太は静かにスイッチを入れました。ほんの少しの静寂の後、長い長い時が過ぎました。「宿題は終わったかい？のび太くん！」「あの日」と同じ白い雲が浮かんでいました。

上の文章は、いくつかある「ドラえもんの最終回」の一つです。原作者の藤子F不二雄さんがつくられたものではありませんが、ドラえもんが好きな人たちの中では有名なものなので、もしかすると、読んだことのある方もいるかもしれません。

国民的アニメ「ドラえもん」の中でも愛されキャラの一人、のび太くん。寝坊したり、勉強が苦手だったりして、ドラえもんの道具を頼つて（ズルして）楽に過ごそうとするけど、結局は失敗で終わる。その反面、誰に対しても分け隔てなく優しく接し、愛嬌あり、正義感あり、という一面も持っています。そんな彼の成長を通して、私たちが生き方を学ぶことが時にあります。

そこで今回のお話です。以前、「人生は選択」というキャッチコピーが某企業のCMで流行しました。

ただ、人生における選択は一度ではなく、何度も何度も訪れます。まさに、人生は選択の連続です。

誰にだって、自分自身をより良く変えていこうとするチャンスはあります。（それをチャンスと受け取ることができるかどうかが、という感性を高めて行けるかどうかにもよります。）

今回、のび太はそのチャンスを逃しませんでした。

“電池切れ”をピンチではなく、チャンスとして捉え、自分自身を変えていこうとしたように…。

これから、人生のターニングポイントがきつと訪れます。受験のように必ずくる選択、突然不意に訪れる選択…。自信を持って迎えられることもあれば、心が挫けそうになる選択もあるでしょう。また、自分の好きなように選択できる時もあるれば、自身を犠牲にしなければならないことも。

ただ、どんな選択をしようとして、それが正しいものかどうかなんて、その時には分かるものではありません。

“その選択が正しかった”と胸を張って言えるように、選択した後の「自分自身を磨く姿勢」が大事になります。

だからこそ、念ずれば、花ひらくのです。

※一年間、「愛読ありがとつごい」しました。またごい。